

風土記の花だより¹⁶⁶

今、そしてこれから見られる植物(2022年12月24日)

早いもので、花だよりもこれが本年最終となりました。今年もどうかこうにか続けられました。これ一重にみな様が読んでくださるからと感謝申し上げます。



シキミの花が咲いています。万葉植物園の入り口を過ぎた通路沿いです。毎年、西から2本目の木が早く咲き始めますが、今年もその木が一番です。でも、シキミの花はサクラの季節まで咲きますので、決して華やかな花ではありませんが、ゆっくりご覧になってください。最近あまり見かけませんが、昔はお葬式の時にこの櫛(しきみ)が並べられていました。私が生まれ育った地域ではそれを「しきび」と呼んでいました。



よく似たマメ2種、上がトキリマメ、下がタンキリマメです。「どこがどう違うん？」と言いたくなるような両者ですね。名前までよく似ています。慣れるまでどっちがどっちは分かりませんでした。どちらも鞘が赤、豆が黒です。はじけた鞘の縁に豆が付く様子も全くと言っていいほど同じです。じつは花もそっくりなのです。



ただ、違うのは葉の形です。もう落ちてしまっているかもしれませんが、トキリのほうが薄くて先がとがっています。タンキリの葉は写真のように先の方が幅広くなっているのです、区別できます。漢字で書くとトキリは「吐切」タンキリは「痰切」です。どちらもかつては薬草だったことがうかがえます。薬効のほどはわかりませんが、それこそ草根木皮(そうこんもくひ)、昔は何でも薬にしていたのですね。



この植物は花だより初登場です。なぜなら、余りにも地味で紹介する気にならなかったからです。名前はコノテガシワ、漢字では「児の手柏」と書き、葉の形が子どもがパーをした手に似ていることからこの名前が付いています。写真は実で、中に茶色の種子が見えています。

よく庭木として植えられる木で、万葉植物園でも見ることができます。

来年は1月7日に167号を発行予定です。ではよいお年をお迎えください。松下